



大野中学校区学校支援地域本部
地域教育協議会会長
やまもと・くにお
山本 國雄さん

新しく生まれた「子ども区長」。
地域のコミュニティーを
子どもたちが理解し、自らその中に
入り込んでいったのです。

学校支援地域本部が発足して3年目を迎えた大野中学校区では、昨年までの実施状況を踏まえ、軌道修正を行いながら、内容の充実に努めています。何より、この活動を通して学校と地域がより近くなり、児童生徒との絆が深まったと確信しています。

この学校支援地域本部の取り組みの中から、「子ども区長」というものも生まれました。地域のコミュニティーである「区」という制度を子どもたちが理解し、自らその中に入り込んでいったのです。

そして、地域の人と連携しながら清掃活動や地域行事への積極的な参加を行うべく、積極的に参加を促す必要があったのが、どうしても必要だったのが情報の共有でした。学校と地域の行事が重なるなどどうしても参加者が少なくなるといった問題を解決するため、行事カレンダーを作つて、学校と地域が情報を共有することを始めました。そういった取り組みのおかげで、地域のイベントには、児童生徒が積極的に役員として参加してくれています。

学校が学校を動かすことは当たり前ですが、地域も学校を支援し、その手伝いができることを誇りに思っています。また、子どもたちが変わり、子どもたちから力をもらうことも多く、こちらが勉強させられることも多いです。

何より地域には、すばらしい力を持った人がたくさんいます。その人たちの生かす活動をするのがわたしたちの使命だと思っています。

昔遊び

総合的な学習の時間に行われた昔遊び。地域の人々がゲストティーチャーとなり、昔遊びの楽しさを伝える。技だけでなく、当時の生活や時代背景を話して聞かせることにより、豊かな心を育てるのが狙い。



みらい2011行事カレンダー

行事が重なり合い、参加が難しくなっていた状況を減らしたいとの思いで、大野地域の4小中学校の学校行事や地域行事を情報共有するために作られたカレンダー。もともとは、子どもの活動組織である「ビッグ・フィールド大野隊」の子ども記者クラブ編集局が、子どもたちが参加できる地域行事や学校行事を編集・掲載し10年間発行してきた。現在は、学校支援地域本部で共同発行。イラストなどは、ビッグ・フィールドのメンバーが手がけている。

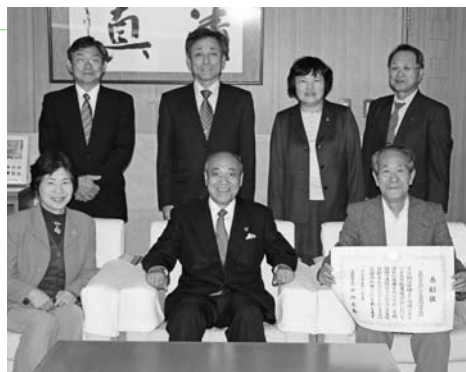
文部科学大臣表彰を受賞

本市で最初に設置された大野中学校区学校支援地域本部が、昨年11月、『優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰』を受賞しました。

これは、未来を担う子どもたちを健やかに育てるために、学校、家庭、地域が連携協力し、地域全体で学校や子どもたちの

教育活動を支援する活動の内容が特に優れ、他の模範と認められるものに対して今年度はじめて行われた表彰です。

多くの地域コーディネーターや学校支援ボランティアが活動し、組織が充実しており、教員が子どもと向き合う時間の拡充と「地域の子どもたちは地域で育てる態勢づくり」の強化が評価されたものです。



大野中学校区 学校支援地域本部の取り組み

大野中学校区学校支援地域本部は平成21年10月に発足し、大野中学校区として、大野西小学校と大野中学校の両校を対象に活動を行っています。

小学生を対象とした支援では、1年生に対しての学級定着支援や、1～6年生に朝の読み聞かせ、放課後はつかいち寺子屋塾、通学合宿、祭りやイベントでのボランティア活動支援、総合的な学習の時間でのゲストティーチャーなどを行っています。

また、中学生に対しては、1～3年を対象とした長期休み中の学習会支援や、家庭科などの教科の実技指導支援、部活動の支援などを行っています。

そのほか、小学6年生と中学1～3年生による地域清掃も行っており、事前に地域の人の日程調整を含む打ち合わせや反省会を行うなど、地域との連携を図っているのも特筆すべき活動の一つです。

発足から2年が経過した大野中学校区の活動。16人の地域教育協議会委員に加え、18人の地域コーディネーター、66人の学校支援ボランティアが活動しています。

今後は既存のメニューに加え、より学校のニーズに応える支援ができるよう支援の輪を広げていきます。